

ナカノ在宅医療クリニック 院長
鹿児島大学医学部 臨床教授

演題募集期間

2008年10月1日(水)～11月30日(日)

特別シンポジウム

「在宅ケアとジェンダー」

上野千鶴子(東京大学大学院)

大熊由紀子(国際医療福祉大学大学院)

樋口 恵子(評論家)

シンポジウムI

「褥瘡治療と多職種連携」

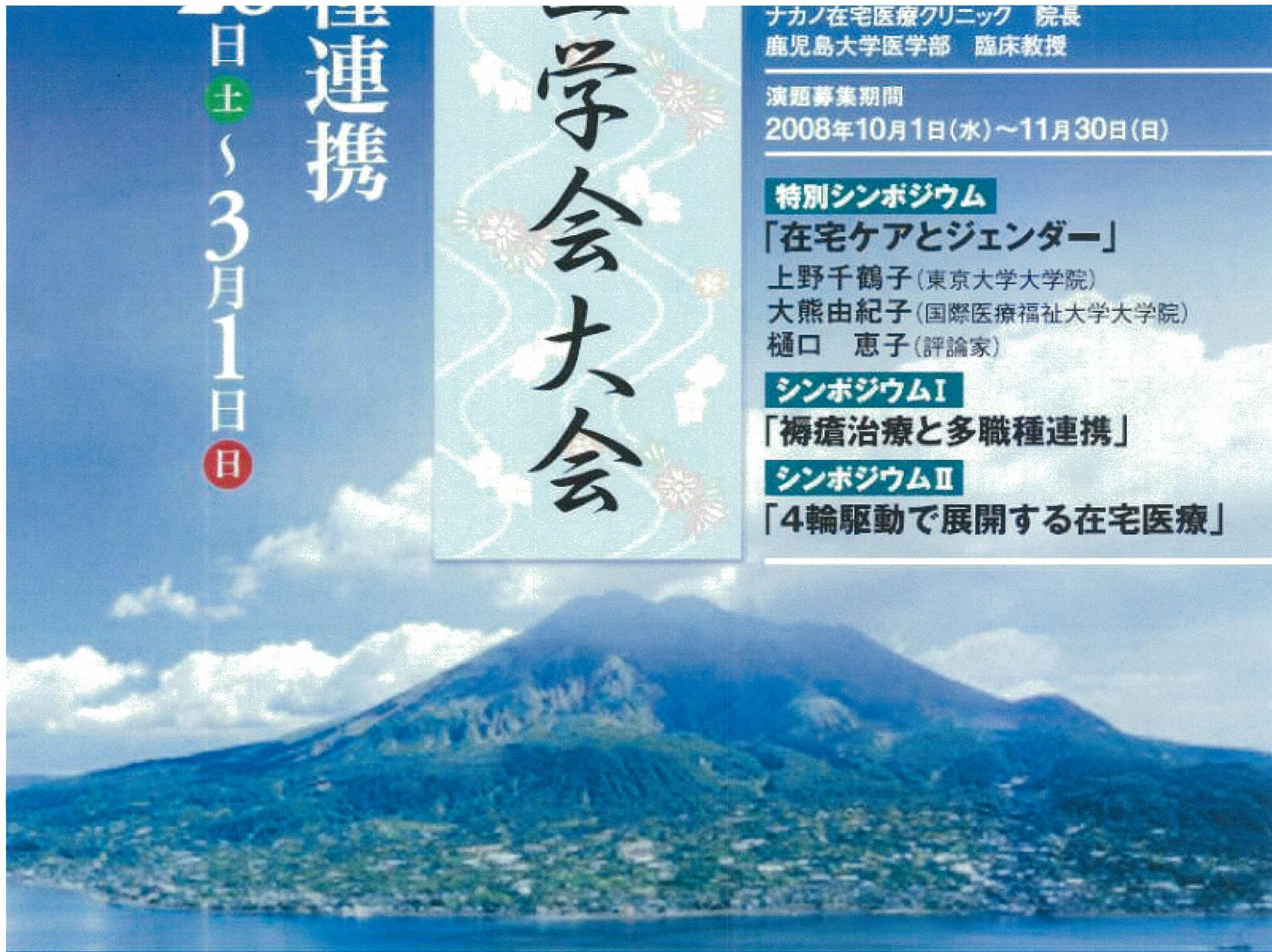
シンポジウムII

「4輪駆動で展開する在宅医療」

学会大会

連携

10月1日(土)～3月1日(日)



まとめ

- 1) 病院医療がキュア主体の医療であるのに対し、在宅医療はケア主体の医療である。(勿論、在宅医療でも急性期医療対応する局面もある。)
- 2) 病院医療(急性期医療)と在宅医療(慢性期医療)がうまく連携することで、病院医療のベッドを減らすことができる。病院医療と在宅医療の連携こそ、究極の(より大きなフレームワークでの)チーム医療である。
- 3) 在宅医療(ケア)においては、チーム医療と、多職種連携が重要である。
- 4) 在宅チーム医療における、要の職種は訪問看護で、能力の高い信頼できる訪問看護師の育成・採用は急務である。
- 5) 薬剤師、歯科医師は、在宅ケアチームの有カメンバーである。
⇒ 四輪駆動で展開する在宅医療。
- 6) 在宅医療(ケア)において、介護職(家族ができるレベル)の医療行為規制緩和の検討は重要と考える。